

平和構築の方法 —理論的枠組み—

Methods of Peace Construction:
A Theoretical Framework

田中宏明

本稿はなぜそしていかに平和を平和的方法で構築できるかについての理論的研究であり、そして平和的ではない「平和構築の方法」の批判である。平和を暴力の否定と捉え、暴力を人間の基本的ニーズに対する回避できる傷害と考えるならば、平和を直接的暴力と構造的暴力の否定としてだけでなく同時に人間の基本的ニーズの充足としても定義できる。平和をこのように定義するならば、平和構築の方法にも、直接的暴力と構造的暴力を否定する消極的アプローチと人間の基本的ニーズを充足する積極的アプローチとがあると考えられる。消極的アプローチには、直接的暴力を否定し消極的平和を実現する非暴力的安全保障と構造的暴力を否定し積極的平和を実現する非暴力的解放がある。積極的アプローチには、消極的平和を実現する紛争解決と積極的平和を実現する発展がある。消極的アプローチによる直接的暴力と構造的暴力の否定は人間の基本的ニーズを充足することになり、逆に、積極的アプローチによる人間の基本的ニーズの充足は直接的暴力と構造的暴力を否定することにつながる。消極的アプローチと積極的アプローチは相互補完関係にある。

キーワード：平和 暴力 人間の基本的ニーズ 非暴力 安全保障 紛争解決 発展

目次

はじめに	IV 紛争解決
I 平和の定義	V 発展
II 非暴力的安全保障	おわりに
III 非暴力的解放	

はじめに

古代ローマの時代から、「平和を欲するなら戦争に備えよ」という格言が信じられてきた。それは平和を達成するために戦争の準備をせよという逆説的な格言である。この逆説をエドワード・ロットワークは「紛争の逆説的ロジック」と呼ぶ。彼によれば、「ある結果を得るためには、そのま

まったく逆のことに努力すべきである」という逆説は紛争においてのみ成り立つ。すなわち、敵対的意志の存在によって特徴づけられる状態をいう紛争のみが、この逆説的ロジックによって支配されている¹⁾。それゆえ、平和を欲するならば、平和とはまったく逆のことである戦争に備えるしかない。

紛争の逆説的ロジックから脱し、平和を構築するためには、ネットワークが批判する「平和を欲するなら平和に備えよ」²⁾ という格言に平和研究は従わなければならない³⁾。なぜなら、ヨハン・ガルトゥングが定義するように、「平和研究は、平和的手段によって平和を達成する方法の研究」⁴⁾ だからである。平和研究が平和的に平和を構築できる方法を提示できなければ、平和研究はその存在価値を失う。それゆえ、問うべき課題とは、平和的ではない「平和構築の方法」を批判し、いかに平和的に平和構築できるかである。ただし、本稿は平和構築の方法を理論的に考察したものにしすぎない。

平和構築の方法を考察する前に、まず、平和とは何かを理論的に基礎づける必要がある。次に、平和の定義に基づいた平和構築の方法として、非暴力的安全保障、非暴力的解放、紛争解決、そして発展を検討する。最後に、これらのアプローチの関係を示して結論としたい。

I 平和の定義

「平和=暴力の否定=人間の基本的ニーズの充足」と定義する。平和とは、暴力の否定であり、人間の基本的ニーズ（以下ニーズと略す）の充足である。平和をなぜこのように定義するのかをガルトゥングの平和の定義をめぐる議論から考察したい。

ガルトゥングによれば、暴力は、殺害、虐殺、内戦、暴力革命、そして戦争などの暴力を行使する主体が存在する直接的暴力だけではなく、抑圧、差別、そして搾取などの暴力を行使する主体が存在せずそれが構造に組み込まれている構造的暴力からなる。直接的暴力の不在が消極的平和であり、構造的暴力の不在が積極的平和である⁵⁾。ガルトゥングは消極的平和と積極的平和のどちらにも優先順位を置かないにもかかわらず、直接的暴力を抑え込むために構造的暴力の存在を肯定する立場⁶⁾ と、逆に構造的暴力を打破するために直接的暴力の行使を肯定する立場⁷⁾ がある。

いずれの暴力肯定の立場もニーズの観点から否定できる。暴力は、「人間の基本的ニーズに対する回避できる傷害」⁸⁾ である。回避できるにもかかわらず、ニーズが充足できない場合には、そこに暴力が作用していると考えられる。直接的暴力と構造的暴力は、ともにニーズ不足を生み出す⁹⁾。ニーズが充足できなければ平和ではない。消極的平和を実現するための構造的暴力はニーズ不足を生み、積極的平和を実現するための直接的暴力もニーズ不足を生む。暴力否定とニーズ充足は平和というコインの裏表の関係にある。

ニーズの充足が平和を意味するならば、ニーズとは何かそしてニーズを形容してなぜ「人間のニーズ」や「基本的ニーズ」という必要があるかを問う必要がある。ニーズは、生理、生存、安全、福祉、アイデンティティ、自由、承認、配分の正義、自律、発展、そして自己実現などによって意

味される¹⁰⁾。しかし、カトリン・レーダーラーによれば、ニーズをいかに定義するかは、「ニーズ研究のおそらく最も挑戦的問題であり、そしてなお解決できない問題」である。特に、ニーズ概念をめぐる重要な論争は、それが「歴史的・主観的」性格かあるいは「普遍的・客観的」性格かについて行われている¹¹⁾。しかし、ニーズが歴史的・主観的性格ならば、ニーズは欲望、願望、欲求、要求、衝動などの主観的な諸概念と区別がつかない。ニーズが主観的ならば、あえてニーズ概念を提示する必要はない。パートンが規定するように、ニーズは普遍的動機を反映する。ニーズは人間に不可欠な部分である¹²⁾。

人間のニーズとは、ニーズ主体が人間一個人であることを意味する。ニーズ主体は、国家、社会、そして集団ではない¹³⁾。ただし、それらはニーズを満たし守る重要な媒介手段として役立つ集合体である¹⁴⁾。さらに、人間のニーズは人間を部分的に認識することへの批判を意味する。たとえば、「経済的人間」、「法的人間」、「心理学的人間」、「組織的人間」、そして「イデオロギー的人間」は、特定の理論やモデルに合うように発明された個人であって、「現実の個人」ではない。人間のニーズ概念によって、人間一個人をホリスティックに捉えていることを示している¹⁵⁾。そして、人間のニーズ概念は、個人が何らかのニーズを欠いているならば、ニーズをどのような優先順位によって組み立てるかは個人によることを意味している¹⁶⁾。しかし、個人が恣意的に優先順位を決めるのではなく、その優先順位が客観的に決められているのでもない。クリスチャン・ベイがいうように、「真に人間的なニーズ間の優先順位」が政治問題の争点であり、政治とは、「政治問題を解決することをめざす思慮にとんだ共同行為」なのである¹⁷⁾。

基本的ニーズとは、ニーズは満たされなければならない必要条件であることを意味している。エーリッヒ・フロムが指摘するように、「人間は、退化し、滅亡するか、それとも、そのニーズに適合した諸条件を生みださざるを得ない¹⁸⁾。」基本的ニーズ充足の失敗は、個人レベルでは物理的・精神的病理、究極的には死に至る¹⁹⁾。それは社会的レベルでは参加の欠如やアパシーに病む社会となる²⁰⁾。しかし、基本的ニーズが満たされなければ、人間はニーズを満たそうと反発せざるを得ない。その反発には、社会レベルのすべての暴力、テロリズム、コミユナルな紛争、反乱、革命、そして戦争などの暴力的破壊的なものだけではなく、異議申し立てや社会運動などの非暴力的創造的なものも含まれる²¹⁾。紛争はニーズを満たそうとする反発であり、それは「破壊者」にも「創造者」²²⁾にもなる。

図1 消極的アプローチと積極的アプローチ

	消極的平和	積極的平和
消極的アプローチ	非暴力的安全保障	非暴力的解放
積極的アプローチ	紛争解決	発展

平和は暴力の否定でありニーズの充足である。図1にあるように、平和構築の方法には、直接的暴力と構造的暴力を否定する「消極的アプローチ」と、ニーズを充足する「積極的アプローチ」がある。消極的アプローチと積極的アプローチは、前者も暴力否定だけではなくニーズを充足し、後者もニーズ充足だけではなく暴力を否定する。特に消極的アプローチにとって、暴力肯定の立場を否定するためにも、ニーズ充足の観点からのアプローチが有効である。消極的アプローチには非暴力的安全保障と非暴力的解放があり、そして積極的アプローチには紛争解決と発展がある。

II 非暴力的安全保障

非暴力的安全保障は消極的平和を平和的に達成する方法である。それは、直接的暴力を否定し、ニーズ特に安全ニーズを充足するアプローチである。非暴力的安全保障はパワー・ポリティクスを意味するリアリズムに基づく主流の安全保障研究への批判である。

リアリズムにとって、国際政治は国益と国益が対立する権力闘争の世界である。国益の増進を目的とする対外政策は、外交、軍事力、そして宣伝という手段によって行われる。国益は国家安全保障の観点から定義される²³⁾。「安全保障は、客観的意味で、獲得された価値に対する脅威の不在によって計られ、主観的意味では、そのような価値が攻撃される恐怖の不在によって計られる²⁴⁾。」これら脅威や恐怖は対外的な戦争や暴力に由来する²⁵⁾。なぜならば、国家体系はアナキーだからである。アナキーは、戦争や武力行使などの暴力の発生と関連する²⁶⁾。それゆえに、「アナキーにおいて、安全保障は最高の目的である²⁷⁾。」戦争への準備は国家にとって決定的に重要となる²⁸⁾。国家体系において戦争は正当化され、安全保障のために対外政策における軍事力が最も重視される。

リアリズムの安全保障の問題点はそれが安全を保障しない点である。第一に、リアリズムはアナキーゆえに暴力が発生すると捉えるが、むしろ単純にそれは戦争に備えるゆえに戦争になる点を見落としている。それゆえに、第二に、リアリズムの安全保障は安全保障のディレンマに陥る。戦争に備え自国を安全強化すると、他国が不安を感じて安全強化するために、自国もまた不安になる。安全保障のための自国の戦争準備が他国の戦争準備を誘発し、最高の目的であるはずの安全を両者とも危うくする²⁹⁾。その結果は、ネガティブ・サムとなる。

非暴力的安全保障は、非暴力の側面では、他国を不安にも挑発もしないトランス・アーマメントを主張する。それには、攻撃的兵器体系から攻撃能力のない防衛的兵器体系への転換を意味する「防衛的防衛」³⁰⁾と、軍事的防衛から非暴力的手段による防衛への転換を意味する「非暴力的防衛」³¹⁾がある。防衛的防衛は、確かに非挑発的だが、防衛的兵器体系がその成功ゆえに攻撃側にとって侵略への障害となるならば、攻撃側は猛攻撃をしかけてくる。そのために、防衛側は人的物的社会的破壊を被ることになる。防衛的兵器体系が防衛のために不十分で不適切ならば、防衛側はより破壊力のある兵器を保有し使用することになる³²⁾。それがエスカレートしていけば、他国を不

安にする安全保障のディレンマになる。安全保障のディレンマに陥らないためには、攻撃的兵器のみならず防衛的兵器という暴力的手段を用いてはならず、非暴力的手段を用いるしかない。これが非暴力的解放において後述する非暴力的防衛である。

非暴力的安全保障は、自国と他国の両者がニーズを充足するという意味でポジティブ・サムの結果になることを示す。なぜならば、バートンによれば、「ニーズは普遍的であり、そして従って共通に保持される」³³⁾ から、自国も他国も安全となることができる。「一方の当事者が安全をより経験すればするほど、その行動はいつそう協力的になるだろうし、そして結果として他方の当事者もより安全を経験することになるだろう。それは今度は逆に初めの当事者により安全を与える³⁴⁾。」安全ニーズは両者ともに共通に保持できる。

III 非暴力的解放

非暴力的解放は積極的平和を平和的に達成する方法である。ただし、このアプローチは、消極的平和の実現とも深くかかわる。第一に、非暴力的解放はリアリズムの安全保障を批判する。上述のごとく、リアリズムの安全保障は「内」と「外」との区別、たとえば味方と敵、国内の秩序と対外的なアナーキーなどを前提³⁵⁾ に、その「外」の脅威のみを問題にし、そして国家を安全保障の対象にする³⁶⁾。つまり、それは、国家が国内において構造的暴力に基づく抑圧的支配をしても問題としない。それは国家がその住民に対して脅威となる場合を無視している。リアリズムの議論において国家はその正統性を問われない。

非暴力的解放は安全保障と不可分の関係にある。ケン・ブースがいうように、安全は脅威の不在であり、「解放は、理論的には安全保障である。」解放とは、人々の自由な活動の選択を實行させない物的人的束縛から人々を自由にするものである。戦争と戦争の脅威は、貧困、貧弱な教育、政治的抑圧などと並んで、その束縛のひとつである³⁷⁾。非暴力的解放は、直接的暴力と構造的暴力からの解放をめざすものである。

ニーズの定義からいえば、非暴力的解放は、個人が安全保障の対象となる。個人的集合的な人々のニーズから生じる安全保障政策を「民主的安全保障政策」と呼ぶロバート・ジョハンセンは、「民主的安全保障の基盤は個人である」³⁸⁾ という。非民主的でニーズを満たさない国家に正統性はない。「正統化はニーズ充足の帰結である³⁹⁾。」民主的安全保障が正統性のある国家の安全保障政策である。

非暴力的解放の第二の批判点は、直接的暴力によって構造的暴力を打破する方法にある。しかし、理論的に、積極的平和を実現するための直接的暴力の行使は、ニーズ不足を生み出すという意味で、暴力である。現実に暴力によって政権奪取したとしても、その新たな政権自体が構造的暴力を体現することになる。なぜならば、ナイジェル・ヤングによれば、暴力の組織はそれ自体非民主的で不平等だからである。命令と服従に基づく前衛革命政党やテロリスト集団には、政治的論争をする余

地はない。軍隊や警察は諸制度の中で最も平等ではない制度である⁴⁰⁾。直接的暴力による構造的暴力の打破は暴力的体制を生む。

では、どのように非暴力的手段によって構造的暴力からの解放ができるのか。ジーン・シャープによれば、非暴力的手段には、非暴力的抵抗と説得、非協力、そして非暴力的介入などがある。彼はそれらを用いて、対外的な侵略者や国内の独裁者から市民は防衛できると主張する。なぜならば、支配者は被支配者の服従と協力に従属しており、市民が広範な非協力をを行いそして大規模な不服従で挑めば、支配者はその支配を固めることが不可能になるからである。彼はこれを「市民に基づく防衛」⁴¹⁾という。

しかし、市民に基づく防衛は、それがたとえ有効に機能したとしても、平和的でニーズを満たすという意味での非暴力ではない。ロバート・バローズによれば、市民に基づく防衛には三つの問題点がある。第一に、それが有効な手段とするサボタージュは「暴力の一形態」であり、平和という目的と両立しない。第二に、それは、「勝ち負け」の考えに囚われて、相手を苦しめ侵略者を負かすことが目標になり、そのニーズを満たすことの重要性を認識していない。それゆえに、第三に、それは、相手側を否定的にみる非人間化に導く。「非人間化は暴力である。」これに対して、バローズはガンジー主義に基づく非暴力的防衛を提唱する。市民に基づく防衛とは対照的に、ガンジー主義の原則は、第一に、目的と手段の統一である。平和には平和的手段が用いられる。第二は、すべての生命の統一の認識である。つまり、相手をニーズを満たす闘争のパートナーとしてみる。それは「双方勝ち」の考えである。第三は、自らが苦しむことを厭わないことである。自らが受難にあっても、社会構造における相手の役割には協力しないが、人間としての相手とは協力する。相手は敵ではなく人間である。非暴力的防衛は、それにより相手の意志を変え、紛争解決プロセスに参加させようとする⁴²⁾。非暴力的解放という創造的紛争によって、暴力的紛争の紛争解決が促される。

IV 紛争解決

紛争解決は消極的平和を平和的に達成する方法である。ハーバート・ケルマンがいうように、紛争の原因とはニーズ充足の失敗あるいはそれへの脅威であり、紛争解決とは紛争当事者のニーズと脅威に取り組む努力である⁴³⁾。紛争解決は、ニーズ充足という意味で、消極的平和だけではなく積極的平和の実現と関係する。そして紛争解決はリアリズムに基づく仲介を意味する紛争処理を批判する。

紛争解決と紛争処理にはそれぞれコンサルタントと仲介者という第三者が介入する点で類似する⁴⁴⁾。しかし、紛争解決と紛争処理は決定的に異なる。バートンによれば、紛争処理とは、「強制的手段によって、あるいは、相対的パワーが結果を決定するバーゲニングとネゴシエーションによって、紛争を処理する抑圧である⁴⁵⁾。」仲介者の役割は、伝達者、定式者、そして操縦者からなる。伝達者は当事者と接触をとりメッセージや譲歩案を運ぶ。定式者は紛争における問題点の再定義や

紛争管理のための定式を見出す。そして操縦者は、バーゲニング構造を当事者の二者関係から仲介者を加えた三者関係に変え、当事者を膠着状態に閉じ込める。交渉のデッドロックから抜け出す方法を仲介者に当事者が求めるために、仲介者は交渉力を得る⁴⁶⁾。仲介者は、当事者に対する報酬の約束(アメ)あるいは懲罰の脅し(ムチ)という形で、テコ作用あるいは強制力を使用する⁴⁷⁾。

仲介の問題点とはそれが紛争を処理してもなお解決されない状況が生じる点にある。第一に、仲介の結果が「勝ち負け」という結果をもたらす。さらに、たとえどちらかが勝利しても、それに不満をもつ敗者が勝者の利得を相殺する行動にでるために、勝利がその結果を危険にさらすというディレンマに陥る。第二に、当事者の主体性が欠如している。参加の有効な機会も結果を有効にコントロールする機会も当事者に与えられていない⁴⁸⁾。

紛争解決に必要なのは、紛争処理とは逆に、当事者間どうしのコミュニケーションであり、当事者による問題点の再定義であり、そして第三者の強制力がないことである。紛争解決とは、「いかなる強制も必要とせず、自ら支持する結果である。なぜならば、それは関係当事者がその目標を達成するという意味でポジティブ・サムだからである⁴⁹⁾。」当事者の目標とは当事者のニーズとその失敗への脅威に取り組む紛争解決である。ニーズの定義からいって、当事者の目標が両立する双方勝ちが可能である。

では、紛争解決のためには当事者はどのようなコミュニケーションあるいは相互作用(話し合い)を行うべきなのだろうか。当事者間に必要なのは「分析的相互作用」⁵⁰⁾である。しかし、当事者は「敵の悪魔的イメージ」と「自己の有徳的イメージ」を持っているために、相互作用を悪化させる。さらに、好戦的で脅迫的な姿勢を取らせるよう助長する「紛争規範」が、当事者間の相互作用を支配し、自己実現的予言を生み出す⁵¹⁾。それゆえ、紛争解決のための特別なセッティングが必要である。それをコンサルタントたる第三者が主催する問題解決ワークショップという。そこにおいて、紛争規範から「アカデミックな規範」への転換が行われる。アカデミックな規範とは、開かれた議論、敵対的な意見に対する傾聴、そして分析的アプローチの奨励である。当事者自身が紛争を分析する。その場合、当事者は「コラボレーション戦略」を採るよう第三者に求められる。それは、紛争を解決すべき共通の問題とみなし、両当事者の利得を最大限にするような取り組みを意味する。コラボレーションは、当事者が自己と他者のニーズの両方に関心をもち、そしてその行動を共通の目標に向かわせるアプローチである。紛争解決は、第三者の助けを得ながら、当事者のコミュニケーションを促進し、当事者自身がともに自己了解と状況の再定義を行う過程である⁵²⁾。

V 発展

発展は基本的に積極的平和を平和的に達成する方法である。発展は平和あるいはその否定である暴力とどう関係するのか。バートンが指摘するように、「発展は、個人の十分な発展とアイデンティティ集団の十分な発展を意味し、ガルトウングが『構造的暴力』と呼んだものの不在を意味す

る⁵³⁾。」しかし、ガルトゥングが平和をニーズの充足と定義し発展もニーズの充足と定義しているように、「平和＝発展」⁵⁴⁾である。発展はニーズの充足であり人間の発展である。発展は積極的平和のみならず消極的平和の実現にもかかわる。発展の否定は、暴力であり、「不良発展」である。不良発展には「過少発展」（あるいは低開発）と「過剰発展」の二面がある⁵⁵⁾。過少発展とはニーズを充足するのに必要な対象が不足していることである。過剰発展とはその対象が有り余っているにもかかわらずニーズが充足できないことである。発展は、少なくとも以下の三点に対する批判である。

第一は、発展を経済発展とみなす考え方への批判である。経済発展は、ジェラルド・マイヤーによれば、一人当たり実質所得の長期的増大過程⁵⁶⁾と定義される。確かに、経済発展は過少発展の克服には不可欠である。しかし、経済が発展したとしても、ニーズの否定に関連するテロや逸脱行動などの社会病理は起こる。経済発展が過剰発展の原因にもなっている。

第二に、発展とニーズを結び付けた開発戦略に「基本的ニーズ戦略」がある。基本的ニーズ戦略は、それが物質的ニーズとともに非物質的ニーズの重要性を強調していたにもかかわらず⁵⁷⁾、物質的ニーズを満たせばよいという「動物園の生活保障の発想」⁵⁸⁾に陥った。発展には貧困克服以上の課題がある。基本的ニーズ戦略は、そもそもニーズ主体が人間一個人である視点がない。

第三に、さらにこの点との関連からいえば、アブラハム・マズローによるニーズのヒエラルキー⁵⁹⁾にしたがって、生理的ニーズなどの低次のニーズに優先順位を置く仮定には問題がある。それにしたがえば、先進国のミドル・クラス以外の大部分の人類にとって、非物質的ニーズなどの高次のニーズの充足は、なお将来の課題となる⁶⁰⁾。これも動物園の生活保障の発想であるとともに、何よりも人間をホリスティックに見ず、ニーズの優先順位が政治問題であることを無視している。

ニーズの定義から考えれば、発展とは人間の発展である。「人間開発戦略」とは人々の選択の幅を広げることであり、それは人間を発展の究極の目的におく。人間開発計画の目的はニーズによって表される。人間開発には、公平、持続可能性、生産性、そしてエンパワーメントという四つの構成要素がある。特にエンパワーメントが意味することは、人々が自分の自由意志に基づいて選択することができるということである⁶¹⁾。人間開発は、基本的ニーズ戦略が人間の主体性の視点を欠いたような陥穽に落ちることはない。

「平和＝発展」であれば、発展は他のアプローチと密接な関係がある。人間開発に基づく「人間の安全保障」は、非暴力的解放と同様に、「飢餓、民族紛争、社会崩壊、テロ、環境破壊、麻薬の不正取引」などを脅威をとみなす。それは、武器ではなく、人間の生活や尊厳にかかわることである⁶²⁾。さらに、発展は紛争解決と予防に貢献する。「長引く紛争状況において低開発を取り扱うことなくして紛争解決を試みることは不毛である」⁶³⁾とエドワード・アザーがいうように、発展は紛争解決の鍵である。さらに低開発の軽減は、暴力紛争の勃発前にシステム変更し構造的暴力を除去する「紛争予防」⁶⁴⁾となる。

おわりに

平和は暴力の否定でありニーズの充足である。暴力否定の方法が消極的アプローチであり、ニーズ充足の方法が積極的アプローチである。消極的アプローチと積極的アプローチは相互補完関係にある平和構築の方法である。第一に、非暴力的安全保障は、消極的平和の実現に関しては紛争解決と同じ目的をもち、非暴力的アプローチとして非暴力的解放と同じ方法を取り、そして人間の安全保障と同じ脅威を問題にする。第二に、非暴力的解放は、積極的平和という目的を発展と共有し、非暴力的安全保障とは非暴力的手段をともに用い、そしてそれにより紛争解決を促す。第三に、紛争解決は、非暴力的安全保障とは消極的平和という同じ目的をもち、非暴力的解放とは破壊的な紛争と創造的な紛争の違いはあってもともに紛争にかかわり、そして発展と同様にニーズの充足を実現させるものである。第四に、発展は、紛争解決とはニーズ充足が鍵となることに違いはなく、非暴力的解放とは積極的平和実現という同じ目的をもち、そして非暴力的安全保障とは戦争の脅威とともに飢餓や貧困という脅威に取り組んで人間の安全を保障する点で一致する。

- 1) Edward N. Luttwak, "The Traditional Approaches to Peace," in W. Scott Thompson, et al., eds., *Approaches to Peace: An Intellectual Map* (Washington, D.C.: United States Institute of Peace, 1991), pp.3-4.
- 2) Edward N. Luttwak, *Strategy: The Logic of War and Peace* (Cambridge: Belknap Press, 1987), pp.3-5.
- 3) 岡本三夫「平和学の誕生と展開」斎藤哲夫、関寛治、山下健次編『平和学のすすめ—その歴史・現状及び課題—』法律文化社、1995年、16-17頁。
- 4) Johan Galtung, "Peace Theory: An Introduction," in Linus Pauling, Ervin Laszlo and Jong Youl Yoo, eds., *World Encyclopedia of Peace*, Vol. 1 (Oxford: Pergamon Press, 1986), p.259.
- 5) Johan Galtung, "Violence, Peace, and Peace Research," *Journal of Peace Research*, Vol. 6 (1969), pp.169-197.
- 6) Michael Howard, "The Concept of Peace," *Encounter*, Vol.61 (1983), pp.19-20.
- 7) Richard Falk, "The State System and Contemporary Social Movements," in Saul Mendlovitz and R. J. B. Walker, eds., *Toward a Just World Peace: Perspectives from Social Movements* (London: Butterworths, 1987), p.23.
- 8) Johan Galtung, "Cultural Violence," *Journal of Peace Research*, Vol.27 (1990), pp.292.
- 9) *Ibid.*, p. 295.
- 10) Maureen Ramsay, *Human Needs and the Market* (Aldershot: Avebury, 1992), pp.170-178. 本書には10人の研究者によるニーズの定義の一覧がある。
- 11) Katrin Lederer, "Introduction," in Katrin Lederer, ed., *Human Needs: A Contribution to the Current Debate* (Cambridge: Oelgeschlager, Gunn and Hain, 1980), pp.3-4.
- 12) John Burton, *Conflict: Resolution and Prevention* (London: Macmillan, 1990), p.36.

- 1 3) Johan Galtung, "The Basic Heeds Approach," in Lederer, ed., *Human Needs*, p.60.
- 1 4) Herbert Kelman, "Social-Psychological Dimensions of International Conflict," in I. William Zartman and J. Lewis Rasmussen, eds., *Peacemaking in International Conflict: Methods and Techniques* (Washington, DC: United States Institutes of Peace,1997) , p. 195.
- 1 5) John Burton, *Dear Survivor: Planning After Nuclear Holocaust: War Avoidance* (London: Frances Pinter, 1983) ,pp.22-33.
- 1 6) Johan Galtung, "The Basic Heeds Approach, "p.71.
- 1 7) Christian Bay, *Strategies of Political Emancipation* (Notre Dame: University of Notre Dame Press,1981) , pp.5-6. [内山秀夫、丸山正次訳『解放の政治学』岩波書店、1987年、6-9頁。]
- 1 8) Erich Fromm, *The Sane Society*, Second Edition (London: Routledge,1991) ,p.19. [加藤正明、佐藤隆夫訳『正気の社会』社会思想研究出版部、1958年、33頁。]
- 1 9) Otto Klineberg, "Human Needs: A Social-Psychological Approach," in Katrin Lederer, ed., *Human Needs*, p.32.
- 2 0) Johan Galtung, "The Basic Heeds Approach," p. 61.
- 2 1) John Burton, *Global Conflict:The Domestic Sources of International Crisis* (Sussex:Wheatsheaf,1984) ,pp.12-13.
- 2 2) Johan Galtung, *Peace by Peaceful Means: Peace and Conflict, Development and Civilization* (London: Sage, 1996) ,p.70.
- 2 3) Hans Morgenthau, *Politics among Nations : The Struggle for Power and Peace* , Fifth Edition Revised (New York: Alfred A. Knopf, 1978) , pp. 542-560. [現代平和研究会訳『国際政治』福村出版、1986年、558-678頁。]
- 2 4) Arnold Wolfers, *Discord and Collaboration: Essays on International Politics* (Baltimore: The Johns Hopkins University Press,1962) ,p.150.
- 2 5) J. Ann Tickner, "Re-visioning Security," in Ken Booth and Steve Smith, eds., *International Relations Today* (Cambridge: Polity Press, 1995) , p.176.
- 2 6) Kenneth Waltz, *Theory of International Politics* (Reading, Mass.: Addison-Wesley, 1979) , p. 102.
- 2 7) *Ibid.*, p. 126.
- 2 8) Patrick Morgan, et al., *Security Studies Today* (Cambridge: Polity Press,1999) , p.20.
- 2 9) John Herz, *The Nation-State and the Crisis of World Politics* (New York: David McKay,1976) , pp.72-75. 土山實男「セキュリティ・ディレンマの国際政治理論」『国際政治』第106号、1994年、71-89頁。
- 3 0) Johan Galtung, *The Alternatives! Four Roads to Peace and Security* (Nottingham:Spokesman,1984) ,pp.172-184. [高柳先男、塩屋保訳『平和への新思考』勁草書房、1989年、302-325頁。]
- 3 1) Robert Burrowes, *The Strategy of Nonviolent Defense: A Gandhian Approach* (Albany: State University of New York Press, 1996) .

- 3 2) Gene Sharp, *Civilian-Based Defense: A Post-Military Weapons System* (Princeton: Princeton University Press, 1990) ,p.5.
- 3 3) John Burton, *Conflict*,p.42.
- 3 4) John Burton, *Deviance, Terrorism and War: The Process of Solving Unsolved Social and Political Problems* (Oxford: Martin Robertson,1979) ,p.103.
- 3 5) R. J. B. Walker, "Security, Sovereignty, and the Challenge of World Politics," *Alternatives*, Vol.15 (1990) , pp. 3-27.
- 3 6) Barry Buzan, *People, States and Fear: An Agenda for International Security Studies in the Post-Cold War Era*, Second Edition (Boulder: Lynne Rienner,1991) ,p.57.
- 3 7) Ken Booth, "Security and Emancipation," *Review of International Studies*, Vol. 17 (1991) , p.319.
- 3 8) Robert Johansen, "Real Security is Democratic Security," *Alternatives*, Vol. 16 (1991) , pp.209-242.
- 3 9) John Burton, "Unfinished Business in Conflict Resolution," in John Burton and Frank Dukes ,eds., *Conflict : Readings in Management and Resolution* (London:Macmillan,1990) ,p.333.
- 4 0) Nigel Young , "Nonviolence and Social Change ," in Paul Smoker, et al., eds., *A Reader in Peace Studies* (Oxford: Pergamon, 1990) ,p. 218.
- 4 1) Gene Sharp, *Civilian-Based Defense*, pp.19-81.
- 4 2) Robert Burrowes, *The Strategy of Nonviolent Defense*, pp.97-271.
- 4 3) Herbert Kelman, "Applying a Human Needs Perspective to Practice of Conflict Resolution: The Israeli-Palestinian Case," in John Burton, ed., *Conflict: Human Needs Theory* (London:Macmillan,1990) ,p.284.
- 4 4) Ronald Fisher, "Third Party Interventions in Intergroup Conflict: Consultation is not Mediation," *Negotiation Journal*, Vol.4 (1988) ,pp.384-385
- 4 5) John Burton, *Conflict*,pp.3-4.
- 4 6) I. William Zartman, "Bargaining and Conflict Reduction," in Edward Kolodziej and Roger Kanet,eds., *Coping with Conflict After the Cold War* (Baltimore: Johns Hopkins University Press,1996) ,pp.279-282.
- 4 7) Ronald Fisher, *Interactive Conflict Resolution* (Syracuse: Syracuse University Press,1997) ,p.165.
- 4 8) John Burton, "The Procedures of Conflict Resolution," in Edward Azar and John Burton, eds., *International Conflict Resolution: Theory and Practice* (Sussex:Wheatsheaf,1986) ,pp.92-98.
- 4 9) John Burton, *Deviance, Terrorism and War*,p.112.
- 5 0) John Burton, *Conflict*,p.204.
- 5 1) Nadim Rouhana and Herbert Kelman, "Promoting Joint Thinking in International Conflicts: An Arab-Palestinian Continuing Workshop," *Journal of Social Issues*,Vol.50 (1994) ,pp158-160.
- 5 2) Ronald Fisher , "Generic Principles for Resolving Intergroup Conflict ," *Journal of Social Issues*,Vol . 50 (1994) ,pp47-66.
- 5 3) John Burton, "World Society and Human Needs," in Margot Light and A. J. R. Groom,eds.,*International*

Relations: A Handbook of Current Theory (London: Frances Pinter,1985) ,p.57.

5 4) Johan Galtung, *Peace and Development in the Pacific Hemisphere* (Honolulu: University of Hawaii Institute for Peace,1989) ,pp1-2.

5 5) Johan Galtung, et al., "Measuring World Development," *Alternatives*, Vol. 1 (1975) , p.150

5 6) G. M. マイヤー編著、松永宣明、大坪滋訳『国際開発経済学入門』勁草書房、1999年、6頁。

5 7) Paul Streeten, et al., *First Things First: Meeting Basic Needs in Developing Countries* (New York: Oxford University Press,1981) ,p.34.

5 8) 坂本義和『地球時代の国際政治』岩波書店、1990年、213頁。

5 9) A. H. マズロー、小口忠彦訳『人間性の心理学』産業能率大学出版部、1987年、55-90頁。

6 0) James Davis, "The Existence of Human Needs," in Roger Coate and Jerel Rosati, eds.,*The Power of Human Needs in World Politics* (Boulder: Lynne Rienner,1988) ,p.24.

6 1) Mahbub ul Haq, *Reflections on Human Development* (Oxford: Oxford University Press,1995) ,pp.3-45. [植村和子ほか訳『人間開発開発戦略：共生の挑戦』日本評論社、1997年、3-54頁。]

6 2) 国連開発計画『人間開発報告1994』国際協力出版会、1994年、22頁。

6 3) Edward Azar, "Protracted International Conflicts," in John Burton and Frank Dukes,eds., *Conflict*, p.155.

6 4) 英語には防止と予防を厳密に分ける概念がない。それゆえ、 Barton は封じ込めの意味合いがある防止 prevention ではなく、予防を意味する provention を造語した。John Burton, *Conflict* ,p.247; John Burton, "Conflict Provention as a Political System," in John Vasquez, et al., *Beyond Confrontation: Learning Conflict Resolution in the Post-Cold War Era* (Ann Arbor: University of Michigan Press, 1995) , pp.115-127.